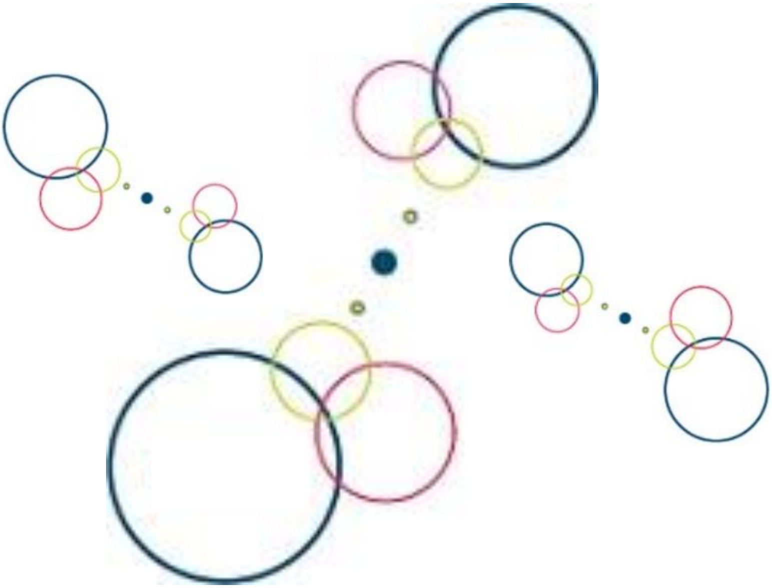
廣瀬仁のルポルタージュ

靈的人生を歩むためのヒント

2026/1/15　　直観力、理解力の本質について



「E21-F ④」ARUT.NOROUY（アルトヌウロウイ） 足立育朗

インスピレーション能力が最も最高次元の靈能力

イエスの教えである『シルバーバーチの靈訓』では、靈能力、ヒーリング能力は誰しも備えている潜在的能力と述べられていますが、實は靈能力、ヒーリング能力こそ靈的眞理普及の中核であり、その眞髄は「人類への無償の奉仕」「純粋なボランティア活動」になります。

なので靈的に最も重い罪のひとつに、「靈能力およびヒーリング能力をお金儲けの手段にすること」が擧げられます。

わたしは靈能者と問われたならば「靈能者ではない」と基本的に答えています。そ

もそも人間は誰しも靈能力、ヒーリング能力を潜在的に備えているので、本当は誰しもが靈能者であり、わたしは特別な能力など使っていません。別に靈視能力も靈聴能力もありません。ただ、スピリチュアリズムが明らかにした靈的眞理の中で、最高次元の靈能力は「インスピレーション能力」と述べられており、わたしはインスピレーション能力に關しては地上人類の中ではあるほうだと思います。そもそも靈能力とは、靈體（れいたい）に備わっている能力を肉體（にくたい）で發揮するようになったものです。

イエス主導のスピリチュアリズム（地球人類救済計画）により靈的眞理が地上世界に普及されるに従って、數百年後の地上人類は現在の靈能者が持つ靈視能力や靈聴能力を当然のこととして發揮するようになります。そのためには「眞の禱（いの）り」に「音が必要不可欠」だと知り、「音叉セルフヒーリング」を普及することも必ずセットになってきます。

未來の地上世界で一番中心となる靈能力、最も重要視される靈能力がインスピレーション能力です。このインスピレーション能力は「テレパシー能力」が高級靈に支配されることによって、靈界からの高次元の思想やメッセージやイメージを直接キャッチする能力のことです。靈的視点から見たとき、數ある靈能力、ヒーリング能力の中で、このインスピレーション能力が最も最高次元になります。

シルバーバーチの靈訓を正しく理解することがインスピレーション能力に繋がる

しかしこのインスピレーションほど、ニューエイジ系によってデタラメな意味に解釈され、深刻な問題を引き起こしているものはありません。一般にインスピレーションと言われているものの殆どは單なる本人の妄想、考え、思いつきに過ぎません。

インスピレーションを得たいと願っている人間は、自分自身の考えを勝手にインスピレーションと決めつける傾向を持っています。結論を言えば、これらはすべて偽のインスピレーション、顯在意識（DIKAG）による願望、錯覺か、低級靈による通信のどちらかです。基本的に高級靈からの靈界通信というのはよほどのケースがない限りありません。

インスピレーションの本質を知るには『シルバーバーチの靈訓』と『波動の法則』と『波動の法則　實踐體驗（たいけん）報告』を何百回以上繰り返し讀むことが絶対条件です。『波動の法則　實踐體驗（たいけん）報告』の宇宙語一覧表で「チューニング」を「TUNING（トゥニング）」と發音し、「TUNING（トゥニング）」の意味は「直觀」と記載されています。直觀は時空から眞の情報を得るための手段と記載されていますが、「TUNING FORK（音叉）」の本質は「時空から眞の情報を得るための手段」だとはっきり述べられているのです。

しかし、シルバーバーチは、「インスピレーションを得ようとするより、高級靈によってもたらされた眞理を信用し受け入れる方がよい」と述べています。高級靈によってもたらされた靈的眞理の中には、この世の問題に対するすべての回答が示されているからです。

これは、イエス主導のスピリチュアリズム（地球人類救済計画）により明らかにされた靈的眞理が最高次元のインスピレーションであることを意味し、イエスに従う、イエスの教えである『シルバーバーチの靈訓』を正しく理解することが、最高次元のインスピレーション能力に直結していることを述べています。現在の地上世界で高級靈からのインスピレーションを得るための条件は、「イエスの地上再臨を受け入れる」「シルバーバーチの靈訓を正しく理解し信仰實踐する」ことが絶対条件に含まれてきます。

3度目の臨死體驗（たいけん）後、直觀についての本格的な追窮が始まる

Q　廣瀬仁は昔から直觀力が高かったのですか？

A　どうでしょう。そもそも直觀についてを本格的に追窮し始めたのは2017年だったと思います。それまである程度、勘に従って生きてきましたが、そこまで直觀力が高かったかと問われたならば、そうでもなかったと思います。

A　直觀を本格的に追窮し始めた理由はありますか？

Q　2016年に日本で色々あり、日本にもういたくないという理由で2017年に海外に渡り、

そのまま世界各國を旅しようとしていました。そのスタートが西オーストラリアのパースでしたが、そこで日本から持參していた本が何冊かある中のひとつが『波動の法則　實踐體驗報告』であり、讀んでいく中で直觀の重要性に段々氣づいていった形で、それまであまり直觀を重要視していませんでした。

時系列でいうと、「永伊智一」が2009年『シルバーバーチの靈訓』は2011年、スピリチュアリズム普及會のHPも2011年、音叉ヒーリングも2011年、奇經八脈の單語を知るのが2014年、奇經八脈の本格的追窮は2017年、3度目の隣死體驗が2017年など、色々とターニングポイントになる出來事があります。ただ、3度目の臨死後が直觀についてを本格的に追窮し始めたターニングポイントでしょう。そこでの體驗は、ようやく直觀という本質に意識が向いたのだと思います。

すべてのインスピレーションはFUGEHUKON（大靈）の調和と神意（あい）が始原

そもそも地上人類は直観に対する正しい認識が出來ておりませんし、一番の問題はImagination（イマジネーション）、Inspiration（インスピレーション）、Intuition（インチュイーション）の區別（くべつ）がまったく出來てません。これは日本語だと「Imagination（想像力）」「Inspiration（直感力）」「Intuition（直観力）」と分類することが可能であり、この中で高級靈からのテレパシー通信に該当するのがIntuition（直観力）になります。

Invocation（インボケーション）、日本語で「Invocation（いのり）」が重要な理由も、生命（いのち）の調律、禱（いの）りそのものがImagination（想像力）、Inspiration（直感力）、Intuition（直観力）に直接繋がった行爲だからです。

そして、靈的世界と物質世界を繋げる「ゲートウェイ」の役割を果たしている

のが、音、水とミネラル、細胞的知性(ニューロン)と電氣信号、奇經八脈(霊的世界)と十二經絡(物質世界)を繋ぐのが經穴(ツボ)だと知ることで、禱(いの)りの本質的意味に繋がってきます。

Invocation(いのり)は、禱(いの)る人間の「靈性の段階」「動機(想い)」「振動波(バイブレーション)」が關わってきます。

また、眞の禱(いの)りは「直觀を得るための手段でなく、FUGEHUKON(大靈)の調和と神意(あい)の法則にEXA PIFCO(靈の心)とDIKAG(肉の心)を一致させ、心をFUGEHUKON(大靈)に合わせていく心の所作」であり、その眞髓は「神への感謝、神への畏敬、神への賛美」でなくてはなりません。

Invocation(いのり)は「神への感謝、神への畏敬、神への賛美」に本質があり、「神と自然法則に心を合わせていく心の所作」であり、「心がFUGEHUKON(大靈)と一致すればするほど本物のインスピレーションを受け取ることが可能になる」と捉えるべきなのです。

その心の所作が「高級靈」および「背後靈(SEPOUW)」との一體化(いったいか)を促すことで、高度なインスピレーションを受け取れるようになるのです。

しかし、すべてのインスピレーションはFUGEHUKON(大靈)の調和と神意(あい)を始原としているので、本物のインスピレーションのすべてが「人の役に立つために、自分の利益を後回しにしなさい」、「目的と目標を持って積極的に人生に挑戰(チャレンジ)しなさい」、「人の役に立つための困難を甘受しなさい」といった形でインスピレーションが必ずきます。要するに顯在意識(肉の心)で避けたくなるようなメッセージこそ、本物のインスピレーションである可能性が極めて高いのです。そもそも地上人類が地上世界に生まれてくる理由は靈性の進化であり、そのために「FUNEKON(靈)優位で、調和の實踐をし、苦しみに対して正しい対処をしなさい」が靈的眞理の眞髄なので、そうなって当然なのです。

廣瀬仁の収益はそんなに多くはない

例えば廣瀬仁は、靈能力、ヒーリング能力こそ靈的眞理普及の中核であり、その眞髄は「人類への無償の奉仕」「純粋なボランティア活動」という嚴格な教えが正しいと思っています。なので靈能力、ヒーリング能力をお金儲けの手段にはしていません。

音叉セルフヒーリング講座も、そもそもの目的が「靈的眞理の普及」であり、その意味は多岐に渡りますが、「イエスの地上再臨」と「シルバーバーチの靈訓のＰＲ」が靈的眞理普及の中核であり、「生命（いのち）の調律」と「病氣は自分自身で9割治せる」は音叉セルフヒーリングの普及と繫がり、ユーワードのシステムを通して「無償の奉仕」を實現させようと試行錯誤しています。音叉セルフヒーリング講座は、生活費の確保

のために、これ以上は下げられないギリギリのラインで現時点やっています。その収益の大半も嫁のEHKO（エーコ）に回しているので、わたし自身の収益はそんなに大してないのが實情です。それは靈的眞理の教えに従っているからそうしているのです。

愚かな生き方をしている地上人類への絶望

シルバーバーチは、「地上というところは妙な世界です。靈の目をもってご覧になれば、人間が愚かなことばかりしていることに呆（あき）れるはずです。いずれはチリと化してしまう、どうでもよいものを後生大事にし、永遠の宝である靈的なものは疎かにしております。靈的な価値が理解できないのです。その場かぎりの愉しみや喜びばかり求め、その物的欲望に埋もれて、肝心の靈性が顕現する機会がほとんどありません」

と述べています。わたしの場合は、愚かな生き方しかしていない地上人類に呆れを通り越して絶望しています。それは、このルポルタージュを讀んでいる全員も例外ではなく、靈的眞理を學び、何の實踐もしていない皆さんは、靈的眞理を知らずにいる一般人よりも遥かに靈的罪が重いとまで言っておきます。

靈的眞理とインスピレーションを比較検討する

わたしは「靈的視野」「犧牲精神」「道具意識」を手に入れ、イエスの地上再臨を受け入れ、イエスが主導する地球人類救済計画（スピリチュアリズム）への地上世界の道具になる生き方が最も賢い生き方であり、死後に最も幸福になる生き方だと確信しています。これは實は「インスピレーション能力」であり、眞のインスピレーション能力とは「FUGEHUKON（大靈）と

FUGEHEKIN（自然法則）の實感度」であり、わたしはスピリチュアリズム普及會（ふきゅうかい）のイエス再臨に關する記事が100％正しいのを「理性」と「直觀」で氣づいているのです。

理性とは、「インスピレーションを得ようとするより、高級靈によってもたらされた眞理を信用し受け入れる方がよい」、高級靈によってもたらされた靈的眞理の中には、この世の問題に対するすべての回答が示されている、これに照らし合わせてインスピレーションの「正確性」を吟味、熟考、考察することを指します。靈的眞理とインスピレーションを「比較檢討」する、これが教訓を得るために最も大切なことなのです。靈界通信の内容の吟味、これが地上世界に欠けている概念なのです。

スピリチュアリズムが明らかにした靈的眞理は、あらゆる角度から考察してもまっ

たく矛盾がありません。なので、**インスピレーションよりも靈的眞理を優先させるべき**であり、靈的眞理とインスピレーションに矛盾点がなければインスピレーションを信じる、これが最も正しいインスピレーションに關する解答になります。

背後靈（SEPOUW）への感謝で直感力が上がっていく

補足をすると、Intuition（直觀力）は高級靈からのテレパシー通信、Inspiration（直感力）は背後靈（SEPOUW）からのテレパシー通信、こうした違いがあり、地上人類の99％以上は「直感」までしか使えてないので「直觀」とは表現できません。また、直感は、背後靈（SEPOUW）への正しい認識があってこそ、背後靈（SEPOUW）への感謝があってこそ正確性が増していくので、背後靈（SEPOUW）の認識がない人間は「直感力」もありません。なので、大半の人間がインスピレーシ

ョンだと思い込んでいるものはImagination（想像力）であり、この想像力を勝手にインスピレーションと決めつけるのが地上人類なのです。

理解力と直観力は本質的には同義語である

この話が、ようやく今回のルポルタージュの本題なのですが、宇宙は「原因と結果の法則」に完璧に管理、コントロールされています。實は「直観は結果」、「理性は原因」に繋がっています。そして地上世界は「結果が先に來る世界」であり、靈的世界は「原因によって結果が完璧に反映される世界」という本質があります。これはどういうことなのかと言うと、「結果（現象）から原因（本質）を追窮する世界」が地上世界の本質なのです。これが「地上世界の學びの本質」、「地上世界で生きる意味の本質」なのです。

この意味に氣づける人は、このルポルタージュを讀んでいる人でも０人でしょう。それほど地上人類の８割以上の「理解力」と「讀解力」が壊滅的なのですが、そもそもすべての差は「理解力（直観）」と「讀解力（理性）」にあります。要するに讀解力（理性）も理解力（直観）も壊滅的なのが地上人類であり、「事實」ではなく「解釈」で生きているのが地上人類の殆どなのです。

これはどういうことかと言うと、「皆んな人の眞意を汲み取らず、言葉の意味だけで解釈する」ことをしています。わたしは「ＡＤＨＤ（※多動性注意欠陥障害）」だから、人間關係のトラブルが絶えないと母親に年始に言われましたが、それも事實です。何故ならば、わたしは「どうでもいい話を愉しいとは思えない」からであり、ふとした瞬間でさえ「意味のない無駄な話はしたくないから、本質を織り込むと激怒さ

れるケース」が多いのが本質的理由です。先ほど述べた、「皆んな人の眞意を汲み取らず、言葉の意味だけで解釈する」だけならば、わたしは人間關係のトラブルが多くなるでしょう。しかし、それはスピリチュアリストになった証を意味します。

話を戻しますが、「理解力（直観力）≠直観力（理解力）」は本質的には「同義語」であり、「直観力が高いとは理解力がある」、「理解力が高いとは直観力がある」という意味になります。何故ならば、「直観的に、話の全貌と要点を瞬時に理解できる力」という意味になるからです。シルバーバーチは直観について説明してくださいと言われた際に、「よろしい。ひとことで説明できます。〝靈の即發〟です。直観とは靈が自己を認識する手段です。ふだんの地上的推理の過程を飛躍します。考えに考えた末に到達するような結論でも、電光石火（でんこうせっか）の速さで到達します」と述べています。

素直、謙虚、感謝が直観力の受容力、正確性に反映される

シルバーバーチが言うように「ふだんの地上的推理の過程を飛躍します。考えに考えた末に到達するような結論でも、電光石火(でんこうせっか)の速さで到達します」これが直観力の眞髄ならば、これは「理解力」とも翻訳することが可能です。これは廣瀬仁にも、嫁のEHKO(エーコ)にも備わっている能力であり、本質的には「直観力」があるから瞬時に話の全貌と要点が理解できるのです。例えば「FUGEHUKON(大靈)」の「FUGEHEKIN(自然法則)」は、調和と神意(あい)と協調關係と分かち合いが根本原理だということも直観力があるならば、すぐ意味を理解できます。

シルバーバーチは「〝童子(どうじ)のごとくあらずんば……〟といいます。大いなる眞理は

往々にして單純・素朴であり、心が素直で、ややこしい理屈を必要としない人は、直観的に理解できるものです」とはっきり述べています。

また、足立育朗さんは「直観とは素直と謙虚でなければ絶対に入ってきません」と述べています。逆を言うならば、眞理が理解できない、眞理を實踐しない愚者の本質は「頑固」であり、「傲慢」であり、その愚かなる生き方を絶対にやめません。それは本質的には「感謝の欠如」であり、「原因（本質）を追窮していない」から起こることなのです。

このコミュニティーでも「頑固」で「傲慢」な方が数名います。それは即ち「自己主張」ばかりして、「自分が正しい」と思い込んでいることが大きな理由です。

日々の行いが、現實世界の結果を作ることに氣づけ

地上世界で人生を左右するのは「理解力」ですが、その理由力の本質は「直觀力」と同じです。理解力がある人と、理解力がない人では、会話、健康、お金、仕事、人間關係の「質」が違います。それだけでは無く、ユーモア、見た目、人への教え方も違います。「マネーリテラシー」とは、お金の知識と思っている人が多いですが、本当は「お金の知識」と「行いの知識」の合致によって、資産は向上する事を理解できる人は殆どいません。「行い」と「お金」は全く別物だと思っていますから、そこを理解せずにいくらもがいた所で、結果良い人生にはなりません。

人間は自分の「行い」という原因の範疇でしか結果は出ません。自分自身の「日々

の行い」が、今の自分自身の「現實世界」という結果を作っています。なので人生において「理解力」が低い事は危険な事です。「原因があって結果」がある、このFUGEHUKON（大靈）のFUGEHEKIN（自然法則）を熟知してないことは危険です。

これは「直観力」があれば、すぐに理解できることです。そして、わたしが皆さんに啓蒙活動をしている本質が「会話、健康、お金、仕事、人間關係、ユーモア、見た目、人への教え方の向上」にあると理解が及び、このコミュニティーで眞劍に人間力を向上させようと努力します。そうしなければ本当の意味での幸福など手に入りません。靈的成長こそ本当の幸福、人間成長こそ本当の幸福、そこに理解が及ばなければ死後に待っているのは地上人生への激しい後悔でしょう。どのような生き方を選ぶのかは自分自身の決心のみですが、後悔しない生き方を選択してほしいものです。